

# Economic Indicators

発表日:2018年9月28日(金)

## 労働力調査・一般職業紹介状況(2018年8月)

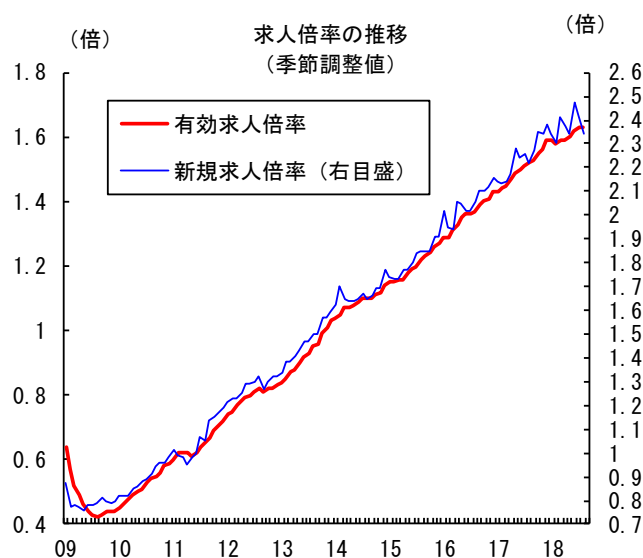
～労働需給の逼迫が続くが、新規求人数の増勢鈍化が懸念材料～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL:03-5221-4528)



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

### ○ 労働需給の逼迫が続く

総務省から発表された2018年8月の完全失業率は2.4%と、前月から0.1ポイント低下した(市場予想:2.5%)。今月は就業者数、雇用者数とも増加する形での失業率低下であり、内容も良好である。失業率は極めて低水準の推移が続いており、労働需給が非常に引き締まった状態にあることが改めて確認されている。

季節調整済みの就業者数は前月差+26万人(7月+4万人)、雇用者数は前月差+3万人(7月+37万人)と、ともに2ヶ月連続で増加した。このところ振れは大きいですが、均してみると雇用は明確な増加傾向にあると評価できる。雇用情勢は引き続き極めて良好である。また、雇用者数を前年比で見ると+1.9%だが、内訳をみると、正規職員が前年比+2.7%(7月:+2.7%)と前月に続いて高い伸びとなっている。18年1～3月は非正規職員の雇用が急増し、雇用を牽引していたが、4月以降は正規職員の雇用が伸びを高めている。単に雇用者数が増加傾向にあるだけでなく、内容も良好である。

### ○ 求人倍率は引き続き極めて高水準だが、新規求人数に頭打ち感

厚生労働省から公表された18年8月の有効求人倍率は1.63倍(7月:1.63倍)と前月から変わらず、新規求人倍率は2.34倍(7月:2.42倍)と2ヶ月連続の悪化となった。新規求人倍率は悪化しているが、引き続きかなりの高水準にあり、労働需給が引き締まっていることが示されている。また、正社員の有効求人倍率は1.13倍と前月と同水準で、これは前月に続いて2004年11月の集計開始以来の過去最高水準である。正社員の労働需給も引き締まっていることが確認できる。

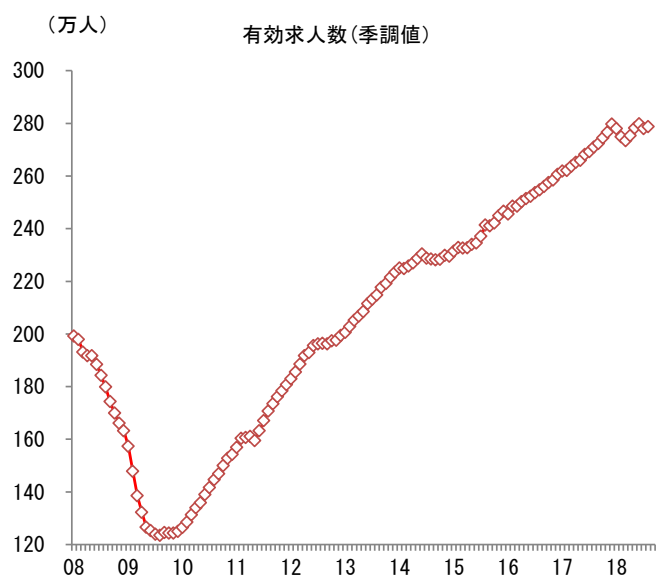
また、有効求人数は前月比+0.2%（7月▲0.6%）、新規求人数は前月比▲0.0%（7月▲2.0%）となった。足元でやや気になるのが新規求人数の動向である。新規求人数は17年中は速いペースで増加してきたが、18年1-3月期は前期比▲2.9%と減少に転じ、その後は4-6月期が前期比+2.1%、7-8月平均の4-6月期比は▲1.6%と、18年入り以降は一進一退で横ばい圏内の動きとなっている。18年に入ってから、鉱工業生産で足踏み感が生じていることが影響している可能性が高いだろう。また、こうした新規求人数の足踏みを受けて、有効求人数についてもこのところ増勢が鈍化しつつある。前述のとおり雇用者数は現在非常に好調な推移を続けているが、新規求人数は先行指標だけに気にかかる。今後、雇用者数の増勢が鈍化する可能性も意識しておく必要があるだろう。



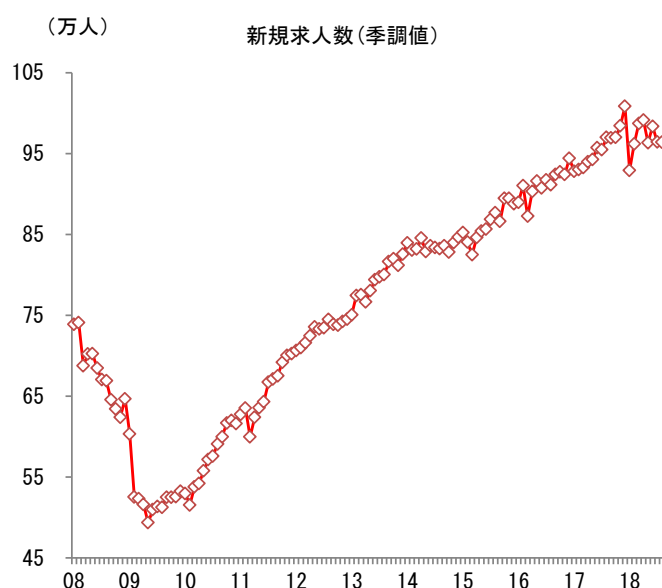
(出所) 総務省統計局「労働力調査」



(出所) 総務省統計局「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

